

令和4年度 学校評価書（計画段階・実施段階）

80

福岡県立朝倉高等学校（全日制）

自己評価					学校関係者評価		
学校運営計画（4月）				評価（総合）			
学校運営方針		校訓「聡明・自立・敬愛」を抛り所とし、一人一人が自己実現を果たすとともに、国家・社会の発展に寄与する人材を育成する。			A		
昨年度の成果と課題		年度重点目標		具体的目標			
・新学習指導要領に準拠した観点別評価を実施する。（評価基準の提示を実施する） ・各教科で予習・復習が必要な授業を実施するとともに、課題を教科間でバランスをとって実施し効果ある家庭学習となるようにする。 ・教育相談・いじめ防止対策委員会において、情報の収集を行い、情報の共有を図ると共に、担任・学年・特別支援コーディネーター・就学支援担当等のチームで協議し、早期対応を行う。 ・学校行事は生徒の主体性やリーダーシップ・フォローアップを磨く場として活用する。 ・地域や中学生からあこがれの学校であるための方策を議論し、共通理解のもと情報発信を行う。 ・各分掌と各学年間での連携強化を図るとともに、働き方改革に資する情報・資料等のデータ共有化と業務の効率化を進める。		(1) 自己実現に必要な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成を実現する学習指導		ア ICT機器を活用しながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善をさらに推進する。 また、目標に準拠した多面的評価や観点別学習状況の評価を行う。 イ 生徒の学習意欲向上に向けて、ハード面・ソフト面の改善を図る。			
		(2) 将来の夢や志を育み、その実現を目指すキャリア教育の実践		ア 夢や希望を持って主体的に進路を選択できる力を育成するとともに、希望進路実現のために必要な資質・能力を高める。 イ 難関大学進学をはじめ多様な進路希望に応じた計画的、組織的指導体制を確立する。			
		(3) 規律と責任を重んじ、自主性や主体性及び協働の喜びを涵養する生徒指導		ア 基本的な生活習慣の確立とともに集団や社会の一員としての自覚と責任を育成する。 イ 学校行事、部活動、生徒会活動等の機会をとおして生徒の自己指導能力を高め、主体的なリーダー・フォローを育成する。また、協働の喜びや達成感・連帯感を醸成する。			
		(4) 人としての資質・能力を高め、人生や社会に生かす学びの実現		ア 「朝倉ICプログラム」を、人としての資質・能力を高める教育活動として包括的にとらえる。また、カリキュラム・マネジメントの効果的な実践を図る。 イ 「朝倉未来塾」など校内外で行われる研修・発表会等への積極的な参加を促す。			
		(5) 学校の教育活動を積極的に改善し、社会の変化に対応できる学校の実現		ア 学校の今日的課題を迅速かつ積極的に改善を図る。 イ 課題解決に向けた、効果的・効率的な組織の構築と運営を行う。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題		
教務部	授業の質の向上と指導方法の改善	各教科科目における教材・指導法の共有を徹底する。	A	B	A	今年度、観点別評価に基づいた学習評価を実施したが、その評価方法が適切なものであったかを教科ごとに点検し、次年度以降の授業や学習評価の改善に生かしていかなければならない。 また、1人1台端末の活用法について研修会を計画する。	
		授業アンケートの綿密な分析や観点別評価方法を軸とした授業改善を行う。	B				
		思考力・判断力及び表現力を問う調査問題の作成や難関大学の過去問研究に積極的に取り組む。	B				
	生徒の学ぶ意欲の育成及び自主的学習態度の確立	自宅学習時間「学年数×2時間」を目標とした学習計画表や家庭学習時間調査を実施する。	A	A		教科間での課題量の調整が不十分な面が見られた。今後端末を利用した課題等が考えられるが、課題全体の把握を工夫し、調整することが必要である。	
		3年間を見据えた学習課題を調整し、点検・評価を確実に実施する。	B				
		個々の習熟や到達目標に応じた学習指導を実施する。	A				
	組織的な学習指導の体制づくり	教科連絡会のさらなる充実により、学習指導に学年全体としてあたる。	A	A		教科連絡会での教員間の情報共有や保護者会をとおした保護者との連携はできているが、より効果的に実施する工夫が必要である。また、教科担当と生徒との2者面談の機会を設けることも検討すべきである。	
		成績連絡表等を通して保護者との連絡を密にし、家庭と一体となった指導の確立を目指す。	A				
		教科主任会等を通じて、教育課程やクラス編成の検討を行う。	A				
	「中学生が受検したい高校」となる、効果的な広報戦略の企画	学校案内、「朝高ニュース」の充実・学校掲示板の活用による効果的な広報を行う。	A	A		今年度は、先生方の協力により、中学校訪問も年内に4回実施できた。小郡学区対象学校説明会や、第7学区進路相談事業も計画通り実施できた。学校外の掲示板も毎月、1～2回以上張り替えることができた。来年度も継続していきたい。	
		ホームページの更新を適宜行い、最新の情報を中学生、保護者に分かりやすく伝えようとするとともに、教務課と連携し体験入学を充実させる。	B				
		小郡地区対象の学校説明会、第7学区進路相談事業の内容を充実させる。	A				
PTA、同窓会、後援会等との連携の充実	各学年の担任、学年団、各部との連携を密にして各行事の効果的開催に努める。	B	A	夏休み中の学友区での学校状況説明会は、新型コロナウイルスの感染が懸念され実施できなかったが、各学友区委員と連絡を取り合い、新年度の役員もなんとか決めることができた。けれども、一部の保護者に負担をかけており、見直しも検討すべきだと考える。			
	定例のPTA役員会や各種委員会・運営委員会の開催等に関する早めの調整を進める。	A					
	PTA関係者や後援会関係者等と意志の疎通を図り、必要に応じて諸行事の内容を改訂する。	A					
学校行事等の早めの企画立案	月別行事予定を早めに作成、提示する。	B	B	業務を担当者が、余裕を持って企画立案をしたおかげで、行事をスムーズに実施できた。また、様々な奨学金の募集を生徒に知らせ、申し込ませることで、チャンスを活かした。来年も速やかに実施したい。			
	各行事や儀式の各セクションの担当者が十分に内容を検討し、企画立案を早期に行う。	A					
	記録を残し、それに基づいて問題点を明らかにし次年度へ活かす。	B					
項目ごとの評価	学校関係者評価委員からの意見						
A	○コロナ禍において、ICTを駆使した授業内容の見直しやオンラインによる自宅待機者への授業の配信など、新しいことにチャレンジしていることが素晴らしい。						
	○特進クラス以外のクラスの生徒の授業アンケートに十分注目し、全生徒が満足する授業環境を作りあげてほしい。						
	○日々の課題、週末の課題等については、各学年学年主任を中心に、教科間の調整を行い、生徒にとって実のあるものにする努力が見られた。						
A	○「第7学区中学生進路相談事業」の責任校として、各高等学校、中学校と連絡を取り合い、成功裏に会を終えることができ、大変良かった。						
	○数年前に新しく受験可能となった小郡地区などは、まだまだ知名度が低く、もっと宣伝が必要である。						
	○中学校毎の本校への訪問も昨年度と比較しても多くなり、中学生への本校のアピールは充実してきている。						

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員からの意見		
教務部	研修課	主体的・対話的で深い学びの創造	年2回の研究授業週間を設定し、教員の授業力向上を目指す。	A	A	新学習指導要領に沿った観点別評価に関する研修体系構築する。 授業と一体化した学習評価を構築する。	A	○新たな学びプロジェクトの協力校として、ICTを用いた授業に対する校内研修を充実させたり、外部の各種研修会の職員への案内など、職員の研修に対する意識を前向きにさせた。 ○人権教育では、外部講師を招いての研修会を計画した。コロナウイルス感染の影響で、実施は叶わなかったが、研修部の研修に対する積極的な姿勢は評価できる。		
			年2回の授業アンケートを行い、教員の指導改善と生徒の学習改善を促す。	A						
			新たな学びプロジェクトと連携し、効果的なICT活用について研究を行う。	A						
		職員研修の充実	年5回の職員研修会を設定し、教員の学びの場を提供する。	A	A				A	ニーズに応じた職員研修会を開催する。 Chromebook活用法の研修を充実させる。
			校内職員研修の充実と、校外研修への参加を促進させる。	B						
			教育の意義についての体験的認識と理解を深め求められる教育実習を目指す。	A						
		生徒対象の校内研修の充実ならびに外部研修への参加促進	主権者教育・消費者教育の研修会を開催し、社会人基礎力を涵養する。	A	B				B	人権教育の3年間を通じた体系を構築する。 外部研修会への参加を促進する。
			新たな人権課題に対応できる知的理解と人権感覚を育成する人権教育を実践する。	B						
			外部のさまざまな研修を案内し、参加を促す。	B						
生徒育成部	生徒育成課	基本的生活習慣の育成およびマナーの向上	大きな声での挨拶を基本とし、他の基本的生活習慣も定着した生徒の育成を図る。	A	A	A	A	○文武両道の実践など、人間力を高める教育方針は素晴らしく、今後も人権重視の教育を貫いていってほしい。 ○制服については様々な考え方があり、総合的に考えると本校も見直しの時期に来ているように思われる。 ○膝をついて床を磨く職員の姿に感銘を受けた生徒がいたそうである。そういった、背中生き方を示す教育ができてきていることは大変素晴らしい。		
			他者への配慮を行うことができ、集団や社会の一員としての自覚と責任を育成する。	A						
			いじめがなく、いじめを許さない生徒の育成を図る。	A						
		生徒会活動・部活動および学校行事をとおして生徒の自己指導力を高め、主体性を育成する。	校内外の様々な活動とおして、協働の喜びや達成感・連帯感を醸成する。	A	A				A	可能な限り行事等を行い、生徒のさらなる精神面の成長を促す。生徒会と協力し校則等の見直しを行っていく。
			校内外の様々な活動とおして、主体的なリーダー・フォロワーを育成する。	A						
			部活動をおして規範意識とチャレンジ精神を培う。	A						
		安全意識の向上	交通安全意識の向上を図る。	A	A				A	SNS使用のモラルの醸成を行う。身の回りの危機に関するアンテナを育て危機管理意識を育成する。
			インターネット上での危機管理意識の向上を図る。	A						
			日常生活に潜む危険への危機管理意識の向上を図る。	A						
	保健課	学校保健活動の活性化	優先される健康課題を把握させ、自主的に管理する能力を育成し、サポートする。	A	A	A	A	○日々のコロナウイルス感染拡大防止に係る対策等、よく対応してもらっているように思う。今後、対応については見直し等も行われるようだが、生徒が社会の中で、節度ある立派な行動がとれるよう、指導をしていってほしい。 ○精神的に不安定な生徒に対しては、例年に比べると早期に、数多く家庭訪問など実施し、いち早く立ち直ることができるよう、全職員あげて取り組むことができています。		
			新型コロナウイルス感染症等の予防・対策を徹底し、安全・安心な学校生活にする。	B						
			保健日より啓発・推進の掲示物を充実させ、最新で正確な情報を発信する。	A						
		教育環境の整備	職員の支援・指導のもと、主体性を育成する清掃活動を推進する。	A	A				A	日頃の清掃活動は、各生徒が意欲的に行い、厚生局中心に美化を呼びかけ徹底できている。また、2回の美化強化週間でも生徒の美化意識を向上できた。
			保健局・厚生局の活動を活性化し、日常的な美化意識の向上と清掃活動を充実させる。	A						
			年2回(5,10月)の美化強化週間の設定や定期的な清掃点検を行い、美化の徹底を図る。	A						
教育相談・特別支援教育の充実		教育相談委員会を通して、情報収集・共有を図り、チームで適切な支援を行う。	A	A	A				教育相談委員会を計画通りに開催し、課題を抱える状況及び支援状況など共通理解が図られた。日頃からの職員同士の相談やアドバイスがより気軽に行われる環境が必要がある。スクールカウンセラーの先生への相談も生徒も遠慮なくできており早期対応が可能となった。	
		特別な支援が必要な生徒の実態を把握し、個別支援計画を作成する。	A							
		スクールカウンセラー等、外部専門機関の相談機能を活用させ、助言を受けて早期対応を行う。	A							
進路指導部	進路指導課	難関大学10名以上、国公立大現役合格者数80名を目標とした指導体制の確立	系統立てた進路学習を行い、外部模試等のデータを活用することにより、教科指導及び担任の指導に生かす。	A	A	A	A	○今年度の3年生については、昨年と比べて、九州大学等難関大学を目指す生徒が多くなった。特進クラス初年度で、3年間にわたる意識付けの成果で、第一志望を貫く姿勢の生徒が増えたことは大変素晴らしい。 ○各学年、模試毎に検討会を実施し、その後の努力目標を明確にし、迅速な対策を講じていることは大変良いことだと思う。 ○小論文の指導は全職員で行うことから、小論文指導の職員研修会を実施されたことには、全職員で生徒を指導していこうという意思の表れで、大変有り難く思う。		
			課外授業、朝高セミナー、ハイレベル講座を生徒の実態やコースの特性に応じて効果的に実施し、生徒の学習意欲と学力を向上させる。	A						
			総合型・学校推薦型選抜を適切に活用する。それにともない、面接・小論文等の指導の組織的な指導は、1学期から行うことができるよう準備する。	A						
		キャリア教育の充実	大学別説明会、オープンキャンパス、職業体験に参加する機会を設ける。	B	B				A	大学別説明会は計画通りに実施できた。職場体験はオンラインによる参加で実施できた。オープンキャンパスは、大学によって参加が制限されることもあった。学問及び職業研究は、各学年において適切に工夫をし実施し、自分に合う志望校の研究をさせることができ成果が見られた。
			生徒の興味関心と関連・派生させた学問及び職業研究を企画実施する。	B						
			時期、内容ともに効果的な進路説明会・進路講演会を実施する。	A						
		小論文指導の充実	小論文・面接指導を体系化する。	A	A				A	各学年とも計画的に実施できた。また、小論文指導についての職員研修も実施でき、職員への資料等の充実が図れた。今後、各学年において対応の指導体制をさらに充実させていく。
			表現力を育成し、説得力のある小論文を書く力をつけるため、系統立てた小論文の指導を行う。	A						
			職員、生徒への小論文・面接に関する資料等の充実を図る。	A						
	図書課	図書館オリエンテーションや朝読書・図書だよりによる読書活動の啓発	図書館オリエンテーション(1年)については映像等を利用した効果的なPRを目指す。	B	A	A	A	○新しい取り組みとして朝読書時「新聞コラム」(3年)の配布を試みた。文化祭や読書週間などでも読書推進の取り組みを実施できた。今後取り組みたい。○全国的に見ると、新聞の購読者が大きく減少していることなど、活字離れが心配される。そのような中、朝読書の推進を始め、読書に関する行事を設定するなど、素晴らしい取組がなされていると思う。 ○毎月の「図書館だより」は、生徒の読書意欲をかき立てる一助となっていると思う。		
			朝読書(1年～3年)については適宜出張文庫や新聞コラム等の活用を試みる。	A						
			定期的に図書だよりを発行し、新刊などの情報発信をし、利用者の増加を図る。	A						
		図書局委員主体によるビブリオバトルや図書関連行事(こども読書の日・読書週間・文化祭等)の企画・運営	ビブリオバトルを実施することで、読書の推進ならびにプレゼン力向上を目指す。	A	A				A	HR2時間で、例年よりビブリオバトルの方法(クラス・学年決勝)を変えて実施できた。読書だけでなく、プレゼン力養成にもなるので今後も実施出来たらと考える。来年度はクラス決勝時に45分授業をお願いしたい。
			図書局委員を中心とした図書関連行事を実施し、図書館運営を活性化させる。	A						
			図書局委員による図書館利用・読書推進を図る。	A						
職員や生徒による選書体制の確立		定期的に職員による選書会を実施(年2回)し、多面的な視点での図書の選書を行う。	B	B	B				選書ツアー2回も実施できた。これからも生徒・職員のニーズに合った選書・図書館運営が出来たらと考える。	
		図書局委員による書店での選書購入(年2回)＝ブックハンティングを実施する。	A							
		小論文・面接対策や時事問題などタイムリーかつニーズに合った蔵書の充実を図る。	B							

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員からの意見			
第1学年	基礎学力・基本的生活習慣の定着	質の高い授業を行い、授業を中心として予習・復習の習慣を身につけさせる。	B	A	学習状況調査の実施など、きめ細かい指導で、計画的に学習する態度の育成ができていていると感じる。そうでない生徒に対するの仕掛けが必要である。	A	○毎年1年生が参加している「朝倉市の未来予想図」(高校生の提言)では、本校から出場の2チームが1位・2位を獲得するなど、大活躍で大変喜ばしい。総合的な探究の時間を利用し、地域研究というテーマで取り組まれているが、その成果が十分に出版されていると考える。 ○不登校気味の生徒宅への家庭訪問などこまめに行っていたが、大変有り難く思っている。			
		上位層から下位層まで全ての生徒に対して「個に応じた指導」を実施する。	A							
		挨拶と掃除の徹底及び、基本的生活習慣を確立させる。	A							
	主体的に進路選択できる力の育成と社会貢献意欲の涵養	希望進路実現につながるよう3年間を見通したキャリア教育計画を立てる。	B	B				A	総合的な探究の時間を通して、地域研究を行った。状況に応じた働きができていた。進路学習が不十分だったと感じた。	
		部活動と学習の両立ができるよう、課外授業やハイレベル講座を有効活用する。	B							
		地域研究をすることで、故郷を大切にすることを育て地域の課題について考えさせる。	A							
	自己指導能力の向上とリーダーシップ・フォロワーシップの育成	常に集団の一員としての自覚を持った行動を意識させる。	B	A				A	学校行事や校外活動に関して、積極的に参加している生徒が多く見受けられた。この雰囲気崩さないように指導していきたい。	
		学校行事や校外活動等に積極的に参加させ、リーダーとなる人材を育成する。	A							
		探究の時間等を利用し、多様化する社会に対応できる思考力・判断力・表現力の基礎を作る。	A							
第2学年	学力と自己学習力の養成	学習状況の把握、指導を継続して行う。	A	A	A	A	○理系特進クラスの数学の成績が、最上位の進学校と比較してもほとんど変わらない。これは大変素晴らしいことで、1年次からの指導のたまものであると考える。その指導の在り方を、教科の垣根を取っ払って、全教科で共有してもらいたい。 ○修学旅行時のコロナ対策など、やると決めたらやるという強い意志・実行力をもった学年であり、何事も一致団結して、生徒指導に当たっていると思う。			
		自己分析、学習計画の立案、反省、改善、実践のサイクルを徹底する。	A							
		学校中心の学習の徹底する。	A							
	適切な進路選択	総合的な探究の時間を有効に活用する。	A	A				A	A	○理系特進クラスの数学の成績が、最上位の進学校と比較してもほとんど変わらない。これは大変素晴らしいことで、1年次からの指導のたまものであると考える。その指導の在り方を、教科の垣根を取っ払って、全教科で共有してもらいたい。 ○修学旅行時のコロナ対策など、やると決めたらやるという強い意志・実行力をもった学年であり、何事も一致団結して、生徒指導に当たっていると思う。
		進路的行事を適宜実施する。	A							
		保護者との連携を密に取りつつ指導する。	B							
	自己を律する能力の育成	ポートフォリオ等を有効に活用する。	B	B				B	A	○修学旅行時のコロナ対策など、やると決めたらやるという強い意志・実行力をもった学年であり、何事も一致団結して、生徒指導に当たっていると思う。
		学校行事や部活動に積極的に参加させる。	B							
		校外研修やオンライン研修に積極的に参加させる。	B							
第3学年	希望進路の実現	授業や課外で多角的に学力を向上させ、国公立大学合格80名以上合格を目指す。	B	B	A	A	○最終学年として、文化祭や体育祭などの学校行事において強いリーダーシップを発揮してくれたと思う。 ○卒業後の進路においては、「第一志望を貫く・夢の実現」に向けての生徒指導が行われており、生徒もそういった指導に最後まで良く答えたと思う。 ○インターハイに出場し、全国優勝した生徒もおり、文武両道を貫いた学年であったと思う。			
		旧帝大講座を実施し、難関大学10名以上の合格を目指す。	B							
		面談によって、学習・生活のつまずきを早期に発見し、組織的に対応する。	A							
	自主性・主体性の育成	学校行事においてリーダーとして活躍できる生徒を育成する。	A	A				A	A	○卒業後の進路においては、「第一志望を貫く・夢の実現」に向けての生徒指導が行われており、生徒もそういった指導に最後まで良く答えたと思う。 ○インターハイに出場し、全国優勝した生徒もおり、文武両道を貫いた学年であったと思う。
		学年集会やHRIにおける指導により、校内外における自己指導能力を育成する。	B							
		イマミライ手帳を活用し、学習習慣や生活習慣のさらなる改善を図る。	A							
	思考力・判断力・表現力の育成	面接指導や小論文指導を早期に組織的に行い、推薦入試に対応できる学力を培う。	A	A				A	A	○卒業後の進路においては、「第一志望を貫く・夢の実現」に向けての生徒指導が行われており、生徒もそういった指導に最後まで良く答えたと思う。 ○インターハイに出場し、全国優勝した生徒もおり、文武両道を貫いた学年であったと思う。
		探究活動を計画的に実施し、表現力を育成する。	A							
		進路講演会や説明会を通して入試情報を提供する。	A							

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・第一志望を貫くことができる強い意志を持った生徒を育成するための、進路学習の在り方を考える。
- ・家庭訪問、スクールカウンセラー等の面談指導を丁寧に行い、不登校気味の生徒の内面のフォローをしっかりと行っていく。
- ・ICTを活用した授業の研究を引き続き行うと同時に、生徒が自ら考え、自ら行動できる力を養成する授業を作り上げていく。
- ・文武両道を校是とし、人間力を高めていく教育を目指すために、学習・部活動に対する姿勢をグレードアップさせる。
- ・教科によっては対外模試で良い結果を出しているため、教科の枠・学年の枠を取り払い、成績向上の糸口を全職員で見つけていく。

評価項目以外のものに関する意見

○ほとんどの教職員が、ICTを駆使して分かりやすい授業を展開しようとしている姿は素晴らしい。膝をつき床を磨く職員の姿に、生徒が心を打たれたという話も素晴らしい。今後も、生徒に範を示し、人物重視の人間力を高める教育を実践してほしい。